

「伝える—災害の記憶」あいおいニッセイ同和損保所蔵災害資料

「災害の記憶をもういちど—風刺画にみる災害と暮らし」展開催のお知らせ

UNPEL GALLERY は、9 月 1 日（防災の日）より、「伝える—災害の記憶」あいおいニッセイ同和損保所蔵災害資料「災害の記憶をもういちど—風刺画にみる災害と暮らし」展を開催します。

本年は、安政 2 年（1855 年）の江戸地震後に広まった「鯨絵」などを展示し、一見不謹慎にも思える表現の中に災害を受け入れ、前を向こうとする庶民の感情がうかがえる風刺画に焦点を当て、コレクションの一部をご紹介します。本展が、皆さまとともに災害への心構えや日頃の備えについて考えるきっかけとなれば幸いです。

【コレクションについて】

本コレクションは、大正後期から戦前期にかけて、あいおいニッセイ同和損保の前身社のひとつである同和火災海上保険の社長であった「廣瀬鉦太郎（ひろせえつたろう）」が収集した約 1,400 点の資料群です。おおよそ 18 世紀から 20 世紀初頭にかけて全国各地で発生したさまざまな災害（地震、火災、台風、落雷、津波、噴火、伝染病など）に関わる、震災・交通資料を主としています。

東京大学地震研究所図書室、旧東京大学社会情報研究所の所蔵資料とともに、日本で最も大規模で重要な災害関係資料群の一つと評されています。これまで全国の博物館で展示されてきたほか、一部は「災害の記憶 デジタルミュージアム」として UNPEL GALLERY の HP でも公開しています。展示されている絵図は、一般財団法人 NHK 財団の超高精細映像と AI 音声合成技術により、鮮明な画質で再現され、「くずし字」と「解説文」の読み上げも行われます。

「災害の記憶 デジタルミュージアム」の入り口はこちら → <https://unpel.gallery/saigai-no-kioku/>

■ 開催概要

タイトル	「伝える—災害の記憶」あいおいニッセイ同和損保所蔵災害資料 「災害の記憶をもういちど—風刺画にみる災害と暮らし」展
会 期	2026 年 9 月 1 日（火）～9 月 27 日（日） 11:00～19:00（月曜定休・最終日は 17:00 まで）【入場無料】
会 場	UNPEL GALLERY 東京都中央区日本橋 3-1-6 あいおいニッセイ同和損保八重洲ビル 1F
主 催	UNPEL GALLERY
特別協力	「みんなで翻刻」
資料提供	あいおいニッセイ同和損害保険株式会社

【展覧会・掲載資料ほか お問い合わせ先】

■ UNPEL GALLERY（担当 / 井上、渡邊）

E-mail / tsubaki@unpel.gallery

TEL / 03-3548-7780 FAX / 03-3548-7781

■ あいおいニッセイ同和損害保険株式会社 広報部（担当 / 神保）

TEL / 050-3461-6242

「伝える—災害の記憶」あいおいニッセイ同和損保所蔵災害資料
災害の記憶をもういちど—

風刺画にみる災害と暮らし

2026.9.1(Tue) → 9.27(Sun)

入場無料



1. 地震後の世相をユーモラスに描いた風刺画。鯨の蒲焼きを喜ぶ職人たちや不況を嘆く芸人を通して、庶民のたくましさと世直しへの期待を描く。
2. 鯨が易者に吉凶を占ってもらう風刺画。商売替えと改心を勧められ、鰻屋に捕まれば蒲焼きになると警告される。
3. 地震を悔いて出家しようとする鯨を、地震で利益を得た人々が引き留める風刺画。被災者の恨めしげな視線との対比が世相を映し出す。
4. 鯨を押さえる鹿島明神の周囲に、地震で利益を得た者や被害を受けた者が集う。多様な人々の姿を描く風刺画。
5. 粗末な仕事でも構わないと不謹慎な歌を口ずさむ職人たちを描いた風刺画。復興景気に浮かれる世相を皮肉っている。
6. 江戸と信州の鯨を人々が懲らしめる風刺画。地震で潤った職人や被災者ら、それぞれの思惑が交錯する世相を描く。